

『ネパールと日本、より良い国になるために』

学校所在府県：奈良県

学 校 名：天理市立西中学校

名 前：吉川 愛子（社会）

実践教科：社会（地理的分野）

指導時数：2時間

対象学年：中学校1年生

対象人数：160人（5クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

本研修を行う前と後で、自身の開発途上国に対する意識が大きく変わった。開発途上国への興味・関心があるものの「世界を変える」ために自分では何も行動を起こせずにいたこと、自分がどこかで「開発途上国を助けてあげなければならない」という思いを抱いていたことに、研修に参加して初めて気付いた。特に、ネパールでの海外研修では、日本とまるで違う生活・文化にふれることができた。その中でももちろん未整備のインフラや不安定な雇用状況など、自身が抱いていたイメージそのままのネパールもあったが、そういった環境を悲観視することなくたくましく生きる人々の姿にも驚いた。「開発途上国＝かわいそう」という方程式などなく、国際協力というものは、現地の人々が自分たちの力ではできない問題を、現地の人々の文化に沿って支援するものなのだとということに気付いた。日本人の私が持つ「当たり前だ」「この方が良い」という考えは、他の国の人にとってはそうではないということ。このことを周りのより多くの人たちへ伝えたい、そのように感じている。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

本校の生徒は、中学1年生ということもあり、日常生活において自分の持つ価値観に当てはまらないものをなかなか受け入れられない部分がある。社会科の授業でも、様々な地域や歴史的事象に関して「なぜこうなるのだろう」という疑問を自ら設定し、追究していくことは苦手である。その反面、見たことのない、知らないものに対して見せる素直で新鮮な反応は、授業を進めていくために大切になってくるものであると考えた。生徒の苦手な部分と良い部分を組み合わせながら、日本に住む自分と世界を関係あるものだと捉え、世界で起きている様々な状況に対して自発的に行動することができるきっかけ作りをこの授業で行いたいと考えた。

私はネパールから帰国し、2学期の初めには全校生徒の前で15分程度の研修報告を行った。そこでは写真や動画を提示しながらプレゼンをしたが、「ネパールというみんなに馴染みのない国の紹介」程度に留まってしまったため、生徒の興味は惹けたものの深い考えに迫るようなものではなかった。授業実践では、ネパールを知ると同時に日本に住む自分たちを見つめることができるようなものを作りたいと考えた。

社会科地理的分野の授業では、アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州の学習を通じて、世界で起こっている様々な都市問題や、対応を迫られている難民問題、人種差別の問題など、持続可能な社会に向けて解決しなければならない問題について取り上げてきた。ヨーロッパのような工業先進国の集まる地域と、アフリカ州のような開発途上国の集まる地域とを両方学習した後だからこそ、同じアジア州のネパールという国から何か見えてくるものがあるのではないかと考えた。実践にあたっては、私が研修前に抱いていた「開発途上国を助けてあげなければならない」という、日本が上位、開発途上国が下位であるかのような考えを持たせて終わってしまうということのないように、日本と共通する部分があることを知り、日本と異なる文化や社会を尊重、尊敬する姿勢を育むことを第一に設定した。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ネパールってどんな国なんだろう？ *写真や統計データからネパールの状況を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1枚の写真から考える「ネパールってどんな国？」 ● 基礎データから考える「ネパールってどんな国？」（人口・面積・GNI・乳児死亡率・識字率・エネルギー供給量を日本と比較する） ● たくさんの写真から考える「ネパールってどんな国？」（衣・食・住・町・交通・文化などの写真を提示） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネパールでの写真 ● 統計資料 ● 教材プリント
2 時限目 ネパールと日本、共通点と良さを見つけよう。 *写真で知り得た情報から、日本との共通点・相違点をまとめる。 *ネパールと日本の発展に必要なものを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時の写真の説明をスライドで行う。 ● 前時からの情報をもとに、ネパールと日本の共通点と相違点を考える。 ● 生徒の感想をもとに「日本との違い『貧しさ』とはなんだろう？」 ● ネパールでの体験談の紹介（国際協力のようす・多民族国家・ものの再利用・家族間のコミュニティ・子どもたちの夢を紹介） ● ネパールと日本がよりよい国になるために、お互いの国から学ぶことは何だろう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真（パワーポイント） ● 教材プリント

3. 授業の詳細

1 時限目：「ネパールってどんな国なんだろう？」

ねらい…資料を通してネパールという国のイメージを深める。

◆内容◆

- ①一枚の写真から「ネパールってどんな国なんだろう？」と考え、グループごとに意見を発表する。

!ココがポイント

情報を与えずに写真①だけを見せる。5分ほど生徒に情報を読み取らせ、出てきた意見は全て黒板に記入する。



ネパールの学校の写真を見て

生徒の反応

- ▶ 「電気がないから貧しいのかもしれない」「電気がないから、雨とか曇りで外が暗い時は大変そう」「地面が土で、みんなサンダルを履いているから貧しいと考えられる」「勉強道具を持っている人とそうでない人がいる」など、日本の学校との違いに着目し、その違いを「貧しい」という言葉につなげる生徒が非常に多かった。

②ネパールと日本の基礎データを並べ、「ネパールってどんな国なんだろう?」と考える。

	ネパール	日本
人口	2764 万人	1 億 2822 万人
面積	15 万km ²	38 万km ²
1 人あたり GNI	730 ドル	42000 ドル
乳児死亡率	32.2%	2.1%
識字率	63.9%	99.8%
エネルギー供給量	1010 万 t	4 億 5228 万 t

！ココがポイント

地図帳や資料集を利用させ、資料の読み取り・活用機会をもたせる。人口・面積といった基礎的なことから、GNIや識字率など、その国の状況を想像できる項目も設けた。

生徒の反応

▶データを全体で確認したときには、「少なっ!」「低っ!」などと日本との差に驚く声も見られた。乳児死亡率を見て「衛生環境が悪いのではないか」、識字率を見て「学校に通えていないのではないか、仕事に就けないのではないか」などと推測する生徒もいた。

③A～Wまでの写真から「ネパールってどんな国なんだろう?」と考える。

！ココがポイント

衣・食・住や町のようす、交通状況など日本と大きく異なる場面だけでなく、ショッピングモールやスマートフォンを使う子どもの写真など、「貧しい」というイメージが覆るようなものも提示した。



写真を見比べてイメージを膨らませる

生徒の反応

▶道路上の大量のゴミ、無秩序な交通状況などの写真からは「うわ、汚いなあ」「やばいなあ」などという言葉が発していたが、料理の写真を見て「おいしそう」と言っていたり、現代的な写真を見て「えー!? スマホ持ってるやん」「SONYあるんや!」など驚いていた。写真資料を増やすことで、悪かったイメージが少し良い方向へ傾いているようだった。

生徒の感想

- ▶同じアジアに暮らす人としてネパールの国が良くなってほしい!
- ▶ネパールは貧しい場所が多いと思っていたけど、都会な場所もあると知った。
- ▶景気の悪い場所もあれば、都市化が進んでいる場所もある。車、バイクなども地球にやさしい燃料で走ってほしい。
- ▶ネパールにはたくさんの解決しないといけない問題があると思った。
- ▶乳児死亡率が高く、エネルギー供給量も低いのに、都会な店を作るくらいなら貧しい場所にお金を送ってあげたらいいと思った。
- ▶日本はネパールへの支援をしていかなければならないと思った。

◆所感◆ ネパールについて、どうしても「貧しい」というイメージを植え付ける展開になってしまったことが反省点だと感じている。しかし、生徒の感想からは、ネパールの中にある物質的な格差に気づいていたり、ネパールの問題点への解決に向けた意見を述べていたりするものもあり、ただ「貧しくてかわいそう」という感想で終わらなかったことは良かったと考えている。

2時限目：「ネパールと日本、共通点や良さを見つけよう。」

ねらい…ネパールと日本の相違点や共通点をまとめ、互いの国の良さに気付き、これからの発展に必要なものを考える。



さまざまな写真を
エピソードとともに紹介

◆内容◆

① 前時のA～Wの写真の説明をする。

！ココがポイント

前時の活動での生徒たちの疑問を解消するために、写真の説明を入れた。エピソードとともに紹介し、より楽しくネパールを知ってもらえるように意識した。

生徒の反応

▶特に反応が大きかったのは食についてである。一般の家庭では手で食事をとるという点では驚きの反応が見られた。また、パシュパティナート寺院での火葬の方法についても、日本と大きく異なるため反応が良かった。

②ネパールと日本の共通点と相違点をまとめる。

！ココがポイント

前時からは日本との違いについて感じる場面が多かったが、違いの中にも共通点があることに気付かせるため、時間をとって考えさせた。

生徒の反応

▶違い：家のつくり・交通状況・路上での店開き・火葬の仕方・発展している所とそうでない所の差が激しい
▶共通点：インターネットが使える・ショッピングセンターがある・地震の被害・米を主食としている

③前時の生徒の感想をもとに「貧しさ」とは何か考える。

！ココがポイント

「貧しい」とはどのような状態のことを指すのか立ち止まって考えさせた。物質的に足りていない状態が貧しさであるという考えを全体で共有することで、お互いの国の発展に必要なことに気付かせる。



「貧しい」とはなんだろうか

生徒の反応

▶「お金がない」「環境が悪い」「物が古い」など、物質の少なさを挙げる生徒が多かったが、「仕事に就けない」という社会の問題に目を向けた意見も出てきた。

④ネパールでの体験談を紹介する。

！ココがポイント

生徒の「日本からの支援が必要だ」という感想をもとに、実際に日本が行っている支援を紹介した。また、ホームステイや交流授業で自身が心を動かされた体験についての話をすることで、生活の知恵やコミュニティの強さなどに気付かせられたらと考えた。

生徒の反応

▶ネパールで多くの日本人が活躍していることに驚く生徒もいた。また、物を最後まで使うネパールの人々の話を聞き感心するようすも見られた。



ネパールの子どもの夢に興味津々

⑤ネパールと日本がよりよい国になるために、お互いの国から学ぶことは何だろう？

！ココがポイント

お互いの国から学ぶべき部分を考えさせることでどの国にも良さがあることに気付かせ、決して「日本が上、ネパールが下」という考えで終わることのないように意識した。

生徒の反応

- ▶日本からネパールへ：環境を良くするための技術・太陽光などの発電技術・法律の整備・学校のしくみを整える・浄水の技術・医療技術・子どもの夢の支援
- ▶ネパールから日本へ：資源を大切に使うこと・家族をもっと大切にする事・輸出入の相手となり交流を深める

生徒の感想

- ▶日本は交通整備ができていたり教育も進んでいるけど、服や食べ物、水を大切に使えているのはネパールなのかなと思った。
- ▶前回の授業ではとっても貧しい国という印象だったけど、今日の授業で食料を大切にしたり、工夫しているすごい国なんだなとも思ったのと、Wi-Fiが使えるなど日本との共通点もあって親近感が少しだけわいた。
- ▶少し田舎に行けば電気がなく、水が汚れていたりとまだ不便な所もある……でもそこに住んでいる人はなんだか幸せそうに感じた。
- ▶最初はネパールは貧しい国としか考えていなかったけど、その環境だからこそ物を大切に使ったり、家族を大切にすることを日本よりも大きいと知ったし、その部分を日本も取り入れれば豊かな国に近づけると思いました。
- ▶やっぱり発展していない点もあるので、ネパールと日本で技術や考えを共有していかないといけないなあと思いました。
- ▶ネパールはとても貧しい国だと思っていたし写真を見てもゴミが道に落ちていたり学校の環境が悪くてあまりいい国ではないと思いました。でも物を大切にするとところは当たり前だとすごいことだと改めて思いました。
- ▶身分で夢を決められたりしてかわいそうだなと思いました。もっと身分の違いがなく決められたらいいのになと思います。他の国の文化のいいところをもっと取り入れたらいいのになと思いました。

◆所感◆ 1時間の授業の中で伝えたいこと、考えさせたいことが多すぎて、一番意見を交流したかった「ネパールと日本がより良い国になるために必要なこと」を考える時間をほとんど取れなかったことは大きな反省点である。1時限目の授業で「ネパールは貧しい国」というイメージが強くなりすぎたかと思っていたが、しっかり生徒たちはネパールの良い点を吸収し、見習おうとしていることが分かり嬉しく感じた。

4. 成果

授業を通して、生徒に「日本のような国が普通ではない」と気付かせることができた点に関しては一点目の成果であると考えている。2(1)で述べたように、本校の生徒は自分の価値観に当てはまらないものを受け入れることが難しい集団であると考えていたが、生徒たちはネパールの多くの資料を通して、驚きながらも新たな発見を重ね、ネパールへの理解を深めることができた。この経験は今後の教育活動でも生かされるものであるだろう。また、二点目の成果はネパールを知ることによって日本について考えさせることができた点である。「物質的に足りていないこと」が必ずしも「悲しい・不幸である」というわけではないということに気づき、その中でネパールのこれからの発展に向けて必要な技術は何か考えることができた。このように未来の発展について考えをめぐらせることは、現在の身近な問題と向き合うことである。今回はネパールという一つの国についての実践だったが、この先、生徒たちが地域の課題や地球規模の問題について考える際に本授業で行った手順は必要となってくるのではないかと考えている。

5. 課題

授業を終えて反省点は様々あるが、その中で今後の課題となるものが二点ある。

一点目は、異文化を尊重し、そこから良い点を学び取ろうとする姿勢を育むことである。今回の授業では、内容を詰め込みすぎたせいで授業のテーマにしていたこの点に迫ることができなかった。本当ならばネパールの良さを伝えるためにもっと時間を割かなければいけなかったが、生徒からの感想では「物を大切に使う」ということだけしか印象に残らなかったのだと伺えた。ネパールのことに限らず、これからも生徒たちは様々な地域の学習を行っていく中で異文化を学ぶ機会が多々ある。その都度、日本に住む生徒たちの生活を振り返らせるような働きかけを行っていききたい。

二点目は、世界の諸問題について考える力を身に付け、行動を起こせる生徒を増やしていくことである。やはり今回の授業だけではどうしても、ネパールに関して他人事のようにしか思えなかった生徒、興味を持てなかった生徒がいることも事実である。まずはそのような状況を変えていくことが必要である。そして、一点目の課題点を含め、少しでも国際協力に興味を持つ生徒を育てていきたい。

資料 1 1 時限目ワークシート

1 年生社会科授業プリント～番外編①～ 組 番 氏名

本日の
テーマ

(1) 1 枚の写真から考えよう！ (写真から読み取れることを使って想像してみよう)

(2) 基礎データから考えよう！ (ビジュアル地理や地図帳の資料を見てみよう)

	ネパール	日本
人口	万人	万人
面積	万km ²	万km ²
1人あたり GDP	ドル	ドル
乳児 死亡率	1000人あたり	1000人あたり
識字率	%	%
エネルギー 供給量	万 t	万 t

どんな国だろう？

(3) たくさん写真を見て、もう一度考えてみよう。
(例、Aの写真から×××な国なのかなと思った・▲▲▲な文化があるのかな？などなど)

記号

(4) 今日の授業の感想を書こう。

資料 2 2 時限目ワークシート

1 年生社会科授業プリント～番外編②～ 組 番 氏名

本日の
テーマ

(1) ネパールと日本の違いと共通点を整理してみよう。

違い	共通点

(2) 5 組のみんなの感想を思い出そう。

- ネパールは毎日とても苦しい生活をしていると知りました。(Nさん)
- あまり行きたいと思っていくな国じゃないと思った。(Tさん)
- 日本のような国がふつうだと思っていけど、違うかった。(Nさん)
- ネパールは貧しいので、道路を整備することもできず、ごみも散らかっている環境があまりよくないと思った。(Hさん)
- ネパールは、整備が滞っている所と滞っていない所の差が驚かした。(Sさん)
- 予想していたより貧しい国だと思った。(Nさん)
- お金がなくて、困っていると思った。(Hさん)
- ネパールはとても貧しく、アフリカに似ている。(Nさん)
- 発展してきている所もあって、ネパールの人がもっと発展できるように識字率も増えて、学校に行ける人が増えてほしいと思った。(Nさん)
- 日本と違って貧しくて、今、日本に住んでいる僕たちはできるだけ水を大切にしたり、募金をしたりして協力していきたいと思いました。(Nさん)
- 日本はネパールへの支援をしていかなければならないと思った。(Tさん)

(3) ネパールでわたしが見てきたこと…

- ①ホームステイでのダンスのお話
- ②「ものを使う」ということ
- ③ボワンの家族の話
- ④こどもたちの夢

(3) ネパール、そして日本がこれからより良い国になるためには…

日本から…	ネパールへ	日本へ	ネパールから…

(4) 今日と前回を含めての授業の感想を書こう。

資料 3 授業パワーポイント

